

学習者が未知の複合動詞に出会った際、前項動詞と後項動詞の意味から当該の複合動詞の意味を推測することが明らかになっているが (松田 2004)、常に正確に意味を推測できるとは限らない。それは、複合動詞を構成する前項動詞と後項動詞の意味から、当該の複合動詞の意味を推測できるとは限らないため (森田 1978)、どの複合動詞の場合に文脈からの情報を活用する必要があるのか、また、前項動詞と後項動詞の意味が既知なのかどうかによって左右されることが、理由として挙げられる。一般的に、第二言語学習者が未知の語に出会ったときは、辞書を引いたりするだけでなく、その未知の語を取り巻く文脈から得られる情報を利用して意味を推測することが奨励される。その一方、文脈からの情報を活用しなくても、その語の構成要素の意味からのみで推測が可能な場合もある。複合動詞の場合、意味推測に文脈からの情報が必要なケースと、前項動詞と後項動詞の意味からのみで十分に意味が推測できるケースがあり、当該の複合動詞を取り巻く文脈量や日本語習熟度の影響が、複合動詞の種類によって異なることが、谷内・小森 (2009) や谷内 (2012) で報告されている。しかし、谷内・小森 (2009) や谷内 (2012) の調査では多枝選択式を採用しており、選択肢で提示した意味が学習者の意味推測に影響を与えている可能性がある。そこで本研究では、モンゴル語を母語とする中上級レベルの日本語学習者 64 名を対象に、①前項動詞と後項動詞の意味から当該の複合動詞の意味をどの程度推測できるか、②意味推測をする際の文脈量、③日本語習熟度、の三点を中心に複合動詞の意味推測について検討した。

本研究で調査対象とした複合動詞は 77 語で、前項動詞と後項動詞の特徴と意味推測の対象とした意味から、次の 5 種類に分類した。1) 統語的複合動詞のうち、日本語能力試験の 2 級から 4 級の語で構成されており、前項動詞と後項動詞の意味が単独動詞の時の第一義と同じ。2) 統語的複合動詞のうち、日本語能力試験の 2 級から 4 級の語で構成されており、前項動詞の意味は単独動詞の時の第一義と同じで、後項動詞の意味は単独動詞の時の派生義のもの。3) 統語的複合動詞のうち、前項動詞は日本語能力試験の 2 級から 4 級の語で、意味は単独動詞の時の第一義であるが、後項動詞は日本語能力試験の 1 級か級外のもの。4) 影山 (1993) が挙げている統語的複合動詞を形成する後項動詞を含むが、意味推測の対象とした意味は語彙的複合動詞の意味のもの。5) 統語的複合動詞ではないことが形態上から判別できる語彙的複合動詞。調査では調査対象者に、(1) 調査対象語のみの提示、(2) 単文内での調査対象語の提示、(3) 複文内での調査対象語の提示、の三条件で意味を推測し、その意味を母語で記述してもらった。調査対象者の日本語習熟度は SPOT (A) で測定し、上位群、中位群、下位群の三群に弁別した。

分析の結果、次の三点が明らかとなった。①どの意味推測条件であっても、前項動詞と後項動詞の意味からどの程度推測できるかが意味推測の正確さに影響する。②複文程度での文脈量があれば意味を正確に推測できるが、調査対象語のみの提示と単文内での提示では、意味推測の正確さに違いがない。③調査対象語のみの提示と単文内での提示では、日本語習熟度による意味推測の正確さに違いはないが、複文内の提示では日本語習熟度によって意味推測の正確さに違いが出る。

谷内・小森 (2009) で扱った語彙的複合動詞の場合、文脈が利用できる条件では日本語習熟度が高いほど正確に意味を推測できるが、文脈が利用できない条件では、日本語習熟度の高低にかかわらず正確な意味推測が困難であった。また、谷内 (2012) で扱った統語的複合動詞の意味推測では、後項動詞の種類に関係なく、単文程度の文脈量、中位群程度の日本語習熟度があれば、意味を正確に推測できていた。本研究では単文程度の文脈量では正確な意味推測につながらなかったことから、複合動詞の意味を正確に推測できるようにするためには、より多くの文脈が必要であると言える。また、谷内・小森 (2009) や谷内 (2012) のような選択式での意味推測では、選択肢で提示した意味が、意味推測の手がかりになっていたと考えられる。

参考文献

- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』 ひつじ書房
 松田文子 (2004) 『日本語複合動詞の習得研究—認知意味論による意味分析を通して—』 ひつじ書房
 森田良行 (1978) 「日本語の複合動詞について」『講座日本語教育』 14, 早稲田大学語学教育研究所, 69-86.
 谷内美智子・小森和子 (2009) 「第二言語の未知語の意味推測における文脈の効果—語彙的複合動詞を対象に—」『日本語教育』 142, 113-122.
 谷内美智子 (2012) 「後項動詞の種類からみた日本語学習者の統語的複合動詞の意味推測の特徴—文脈量と日本語習熟度の影響を中心に」『言語文化と日本語教育』 44, 1-10.